

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	手話		担当教員 (実務経験)	山本 浩司 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	8回	時間数 15時間
授業目的	聴覚障がい(者)を理解し、手話や指文字、口話などを使って伝え合う方法を学ぶ。				
到達目標	・自己紹介など簡単な手話ができる。 ・「手話」「聴覚障がい」について基本的な事柄の説明ができる。				
テキスト・ 参考図書等	『さっぼろの手話』 さっぼろの手話編集委員会 交易社団法人札幌聴覚障害者協会				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	授業後のまとめ(提出物)などを含めて「手話などの読み取り」や「課題文の手話表現」、「手話」、「聴覚障がい」の基本的理解の観点で評価する		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	教科書をもとに、日常生活を想定した基本的手話を学ぶ(実技)と、ビデオなどで実際のコミュニケーションを学びます。 手話などの学習をとおして豊かな表現力を身につけてほしいと思います。 聴覚障がい者と出会ったとき、積極的にコミュニケーションする人になってほしいと願っています。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	表現し、伝え合ってみよう	手話などの基本的な理解、挨拶等の表現		
	2	名前や誕生日、出身等の紹介	自己紹介(名前や年齢等)、歌の手話表現(1)		
	3	家族の紹介、趣味の紹介	自己紹介(趣味や家族等)、心情の表現、歌の手話表現(2)		
	4	食事会、道案内、明日の予定	連絡、相談、報告、歌の手話表現(3)		
	5	数字の使い方、指文字	数単位、指文字の使い方、歌の手話表現(4)		
	6	仕事の話、昨日のこと	日常会話1(伝え方の工夫)、歌の手話表現(5)		
	7	どうしたんですか?	日常会話2(質問と応答)、歌の手話表現(6)		
	8	自己紹介(スピーチ)	復習(短いスピーチの表現と読み取り)、歌の手話表現		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	点字		担当教員 (実務経験)	前佛 誠 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	8回	時間数 15時間
授業目的	社会福祉学科に学び、将来関係する職に就く者が、視覚障害者用(盲人用)文字としての点字を正しく理解し、障害者のコミュニケーション手段として、ある程度活用できることは意義深いことである。読み方、書き方の基礎・基本を中心に、正しい表記法で簡単な点字文章が書ける程度までを期待したい。また、点訳ボランティアの仕事に興味を持っていただけるとありがたい。				
到達目標	点字表記法の基本を理解し、簡単な点字文章を読み書きができる。				
テキスト・ 参考図書等	『点訳のしおり(2021(令和3)年4月20日新版第2刷発行)』 社会福祉法人日本点字図書館				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	毎回の提出物の評価及び「読み」「書き」を中心としたテストにより成績評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	%				
履修上の 留意事項	プリント及びテキスト「点訳のしおり」を活用し、いずれの回も点字文を作成し、毎回提出する。点字は、「読む」場合と点字盤で「書く」場合とでは表裏の関係になる。毎時間の授業が常に大切である。8回という非常に少ない授業時数であるので、気を抜くことなく授業に参加することを期待する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、盲人用文字	視覚障害者と文字、点字の歴史、身の回りの点字、50音		
	2	点字の読み書き(1)	濁音、半濁音、拗音、撥音、促音、長音、数字 等		
	3	点字の読み書き(2)	アルファベット、外来語、各種記号、各種点字器 等		
	4	点字の表記法(1)	仮名遣い、数字・アルファベットを含む文 等		
	5	点字の表記法(2)	分かち書きの原則① 等		
	6	点字の表記法(3)	分かち書きの原則② 等		
	7	書き方の形式他	分かち書きの原則③、各種書式、点字文章の読み書きドリル 等		
	8	点字文章の作成とまとめ	点字表記法の復習、点字文章作成、まとめ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	医療的ケアⅡ		担当教員 (実務経験)	阿部 幸恵 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	安全な喀痰吸引、経管栄養実施のため、確実な手技を習得する。					
到達目標	口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引、経鼻経管栄養、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養の評価項目について手順通りに実施できる。					
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座15医療的ケア 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	喀痰吸引(鼻腔内、口腔内、気管カニューレ内)、経管栄養(経鼻、胃ろう又は腸ろう)のすべての行為において5回以上演習を実施する。実施5回目以降にすべての項目についての評価結果が「基本研修(演習)評価基準」で示す手順どおりに実施できているとなった場合、演習の修了を認める。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	100%					
履修上の 留意事項	身だしなみを整え取り組んでください。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション (阿部・児玉・髙田・渡邊)	評価を受けるにあたっての心構え・オリエンテーション 物品チェックなど			
	2	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	鼻腔内吸引手順・評価試験			
	3	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	鼻腔内吸引手順・評価試験			
	4	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	鼻腔内吸引手順・評価試験			
	5	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	口腔内吸引手順・評価試験			
	6	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	口腔内吸引手順・評価試験			
	7	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	口腔内吸引手順・評価試験			
	8	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	気管カニューレ内吸引手順・評価試験			
	9	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	気管カニューレ内吸引手順・評価試験			
	10	喀痰吸引法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	気管カニューレ内吸引手順・評価試験			
	11	経管栄養法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	経鼻経管栄養手順・評価試験			
	12	経管栄養法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	経鼻経管栄養手順・評価試験			
	13	経管栄養法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	経鼻経管栄養手順・評価試験			
	14	経管栄養法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	胃ろう経管栄養手順・評価試験			
15	経管栄養法 (阿部・児玉・髙田・渡邊)	胃ろう経管栄養手順・評価試験				

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	保健医療と福祉		担当教員	高泉 一生	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	保健医療の動向、保健医療に係る政策・制度・サービス、保健医療領域における社会福祉士の役割、多職種連携や協働、保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を学ぶ。				
到達目標	①疾病構造の変化や在宅医療推進の背景を説明できる、②自己決定権の尊重、医療原理の4原則、倫理的課題を説明できる、③医療保険や医療費に関わる制度や病院・病床の機能分化を説明できる、④保健医療領域における社会福祉士、精神保健福祉士、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、介護福祉士、介護支援専門員等の役割を説明できる、⑤多職種連携におけるマルチ・インター・トランスディシプリナリモデルを説明できる、⑥保健医療領域で働くソーシャルワーカーの業務や支援の内容を説明できる、ことを目標とする。				
テキスト・参考図書等	『最新 社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉』 一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	定期試験、提出物の提出状況及び内容、教員の問いかけに対する応答、授業への参加態度(主体的に他者の発言を聴こう、理解しようとする姿勢、積極的に自分の思いや考えを言語化しようとする姿勢)などを総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	30%				
履修上の留意事項	保健医療の課題を持つ人とのかわりには実践領域を問わないため、本科目はソーシャルワークの専門職を目指すうえで理解すべきものである。各授業とも理解を深めようとする姿勢で意欲的に参加すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割、存在意義	医療ソーシャルワーカーの業務指針、保健医療ソーシャルワーク実践		
	2	保健医療領域における支援の実際: 疾病及びそのリスクがある人の理解	疾病、病者の理解、人生における病の意味、病によって生じる生活上の課題		
	3	保健医療に係る倫理: 自己決定権の尊重	患者の権利、自律、インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、意思決定支援、アドバンスケアプランニング		
	4	保健医療に係る倫理: 医療倫理の4原則と倫理的課題	医療倫理の4原則、高度生殖医療、出生前診断、脳死と臓器移植、尊厳死、身体抑制		
	5	保健医療の動向: 疾病構造の変化、在宅医療の推進	感染症の減少と生活習慣病の増加、社会的入院、在宅医療の役割と課題		
	6	保健医療の動向: 福祉的課題	依存症、認知症、自殺企図、虐待防止		
	7	保健医療に係る政策・制度・サービス: 医療保険制度の概要	医療サービス、医療費自己負担、高額療養費、無料低額診療、傷病手当、特定医療費助成制度		
	8	保健医療に係る政策・制度・サービス: 診療報酬制度の概要	診療報酬制度の体系、社会福祉士が関連する診療報酬		
	9	保健医療に係る政策・制度・サービス: 医療施設、保険医療対策の概要	病院、診療所、病床の機能分化、保健所の役割、地域医療の指針、5疾病5事業		
	10	保健医療領域における専門職の役割と連携: 各専門職の役割	医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員の役割		
	11	保健医療領域における専門職の役割と連携: 院内連携・地域医療連携	院内連携、病診連携、病病連携、ソーシャルワーク部門の構築		
	12	保健医療領域における専門職の役割と連携: 地域包括ケアシステムにおける連携	地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種連携、マルチ・インター・トランスディシプリナリモデル		
	13	保健医療領域における支援の実際: 終末期ケアと認知症ケア	終末期患者と家族への支援、認知症患者と家族への支援		
	14	保健医療領域における支援の実際: 救急・災害現場における支援	急性期医療機関における患者、家族への支援、DMAT、DWAT		
15	まとめ	各回の要点整理と今後に向けて			

授業科目 (科目ID)	社会福祉調査の基礎		担当教員 (実務経験)	米田 龍大 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	社会調査の意義と目的及び方法、統計法の概要、社会調査上の倫理や個人情報保護におよぶ広範囲な分野を説明でき、調査から得られたデータをパソコンを用いて適切に分析し結果を提示できるようになることを目的としている。				
到達目標	①社会調査の目的と意義、史的展開、基礎的な社会調査手法について説明できる。②社会調査上の倫理、個人情報の保護、統計法について説明できる。③調査研究報告に対し批判的に吟味できる。④パソコンを用いて、調査データを適切に分析し結果を提示できる。				
テキスト・ 参考図書等	テキスト:「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座5 社会福祉調査の基礎」(中央法規) 参考図書:「国民衛生の動向2022年版」(厚生統計協会)、「社会調査の基礎-社会調査士A・B・C・D科目対応」(株式会社 弘文堂)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	授業への参加態度、授業振り返りシート20%と最終テスト80%で評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	主に配布資料と教科書を用いて講義を展開する。講義の一部では演習も取り入れる予定であるため、基礎的なパソコンの操作については自主学習が必要になる。教科書以外の参考文献は講義内で適宜伝える。社会調査は根拠に基づくソーシャルワーク実践に必須の科学、技術である。基礎的な知識と技術を獲得できるよう、楽しみつつ集中して取り組んでいただきたい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス、社会調査概論(1)	本講義の目的、講義の全体像について確認する。 調査法からの反論;批判的に吟味できる。		
	2	社会調査概論(2);社会調査の史的発展、統計法	社会調査の歴史的発展、代表的な社会調査について説明できる。 統計法について説明できる。		
	3	調査法概論(3);統計法と統計調査の種別	統計調査の概要:公的統計、基幹統計、一般統計調査 他について説明できる。		
	4	調査法概論(4);適正な調査の条件	バイアス、交絡、統計的検定(危険率)について説明できる。		
	5	調査法概論(5);疫学研究法の理解	記述疫学:スノーの「コレラの感染拡大の阻止」 他について説明できる。 分析疫学:ドル&ヒルの「喫煙の肺がん発症影響」 他について説明できる。		
	6	調査の技法(1);研究デザイン	調査デザイン、操作的定義、データ収集方法について説明できる。		
	7	調査の技法(2);調査票の作成(演習形式)	調査票作成時の留意点、調査項目の設定、質問文作成の留意点、変数の種類について説明できる。		
	8	調査の技法(3);調査データの取り扱い(演習形式)	調査データの取り扱いに関する留意点、量的解析に向けたデータの取り扱い手法について説明できる。		
	9	記述統計;適切な図表の作成(演習形式)	図表の特性について理解し、適切な図表を作成できる。		
	10	推測統計(1);相関分析、単回帰分析(演習形式)	相関分析、単回帰分析について説明できる。		
	11	推測統計(2);平均値の検定、 χ (カイ)二乗検定(演習形式)	t検定、 χ (カイ)二乗検定について説明できる。		
	12	推測統計(3);多変量解析(演習形式)	重回帰分析、ロジスティック回帰分析について説明できる。		
	13	質的調査の方法(1)	質的調査の概要、調査法の特徴について説明できる。		
	14	質的調査の方法(2)	質的調査の企画、分析、実施手法について説明できる。		
15	総括;根拠に基づくソーシャルワーク実践に向けて	社会調査の有効性と限界について説明できる。 ソーシャルワークにおける社会調査の活用事例について説明できる。			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワーク演習Ⅲ		担当教員 (実務経験)	笠師 千恵 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	①地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。③実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。④実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。				
到達目標	①ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践の展開過程を、実践モデルやアプローチを活用して分析・検討することができる。②ソーシャルワーク実習において体験した事例を、スーパービジョンを通して検討し、ソーシャルワークの価値・知識・技術に照らして体系的に理解できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習[社会専門]』日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出物の内容と提出状況、ケース検討やグループディスカッション時の発言内容・言葉づかい・協働の状況により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	60%			
その他	40%				
履修上の 留意事項	与えられた課題に単に取り組むのではなく、主体的に実践・追究する姿勢を持つよう心がけてください。特に実習体験を取り扱う演習では、他者との共有や配慮(言葉づかいに留意)、受容・共感的な態度で臨むことを徹底してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、ソーシャルワーク実践の展開①	本科目の目的と意義、演習の進め方についての確認(ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱの振り返りを含む)、ミクロ・メゾレベルにおける実践事例の検討(インテーク)		
	2		ミクロ・メゾレベルにおける実践事例の検討(アセスメント)		
	3		ミクロ・メゾレベルにおける実践事例の検討(計画の策定と実施、モニタリング)		
	4	ソーシャルワーク実践の展開②	地域福祉の基盤整備・開発にかかる事例の検討・展開(地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握)		
	5		地域福祉の基盤整備・開発にかかる事例の検討・展開(地域アセスメントと計画の策定)		
	6		地域福祉の基盤整備・開発にかかる事例の検討・展開(地域アセスメントと計画の策定)		
	7		地域福祉の基盤整備・開発にかかる事例の検討・展開(地域の組織化、社会資源の活用・開発、評価)		
	8	ソーシャルワーク実習の振り返り①	実習体験の言語化・概念化		
	9		実習体験(場面)の構造的理解		
	10		実習体験(場面)の構造的理解に基づく事例の検討		
	11		後期実習に向けた課題の設定		
	12	ソーシャルワーク実習の振り返り②	実習体験の言語化・概念化		
	13		実習体験(場面)の構造的理解		
	14		実習体験(場面)の構造的理解に基づく事例の検討		
15		ソーシャルワークの価値、専門知識・技術に照らした事例の理解・評価			

16	実習体験のスーパービジョン①	グループスーパービジョン形式を用いた実習体験の共有(概念化と構造的理解)
17		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討(分析と評価)
18		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討(分析と評価)
19		ソーシャルワークの価値、専門知識・技術に照らした事例の理解
20	実習体験のスーパービジョン②	グループスーパービジョン形式を用いた実習体験の共有(概念化と構造的理解)
21		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討(分析と評価)
22		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討(分析と評価)
23		ソーシャルワークの価値、専門知識・技術に照らした事例の理解
24	実習体験のスーパービジョン③	グループスーパービジョン形式を用いた実習体験の共有(概念化と構造的理解)
25		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討(分析と評価)
26		実習体験の構造的理解にもとづく事例の検討(分析と評価)
27		ソーシャルワークの価値、専門知識・技術に照らした事例の理解
28	実習におけるジレンマ体験の検討①	ジレンマ体験の構造的理解
29	実習におけるジレンマ体験の検討②	倫理綱領に照らしたジレンマ事例の検討
30	全体のまとめ	ソーシャルワーク演習において学んだ知識・技術・技能とその習得状況の確認

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		担当教員 (実務経験)	高泉一生 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	有意義なソーシャルワーク実習Ⅰを行うための準備を行い、実習後は自身の実習体験を振り返り、ソーシャルワークの価値・知識・技術の観点から概念化・理論化し体系立てて行くことができる総合的な能力を涵養する。				
到達目標	①実習の展開や実習生に求められる姿勢・視点、各種記録様式の意味、記載方法をあらかじめ理解し、事前訪問および実習を遂行することができる。 ②実習体験をジェネリックな枠組みでとらえ直し、ソーシャルワークの専門性について理論と結び付けて見解を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	適宜、資料を配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	<ul style="list-style-type: none"> 左記「レポート」は、事前学習レポート及び事後レポートである。 左記「小テスト」は、実習前知識試験である。 左記「提出物」は、個人票、実習計画書、事前訪問報告書等の提出内容および提出状況を指す。(本科目の対象となる提出物と実習の評価対象となる提出物の具体的説明は授業内に行う。) 左記「その他」は、実習報告会の発表・質疑応答・参加態度を意味し、自ら確認・質問する、メモをとる、他者と協働して取り組むなどの主体的な取り組み姿勢を意味する。 		
	レポート	35%			
	小テスト	20%			
	提出物	30%			
	その他	15%			
履修上の留意事項	ソーシャルワーク実習指導Ⅱに引き続き、ソーシャルワーカーとしての実習に向けて準備を行います。準備が整わないまま実習に行くことはできませんので全授業に必ず出席してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	実習の具体的なイメージの構築 (高泉・杉浦・吉岡)	個人票・実習計画書の作成、実習様式・報告書様式の確認		
	2	実習生の責務 (高泉・杉浦・吉岡)	実習協定書・合意書を通じた実習生の責務と権利の理解 個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解		
	3	事前訪問の目的と内容、実習前知識確認 (高泉・杉浦・吉岡)	事前訪問の意義目的の理解、実習計画書の3者合意形成 実習前のソーシャルワークに関する知識の確認		
	4	実習記録、事例研究の理解① (高泉・杉浦・吉岡)	実習記録、事例研究の実施方法の確認①		
	5	実習記録、事例研究の理解② (高泉・杉浦・吉岡)	実習記録、事例研究の実施方法の確認②		
	6	訪問指導とスーパービジョン (高泉・杉浦・吉岡)	訪問指導、スーパーバイザーとしての姿勢の確認		
	7	実習の振り返り (高泉・杉浦・吉岡)	事例研究の考察		
	8	実習の振り返りと課題の明確化 (高泉・杉浦・吉岡)	実習評価表を用いた自己評価と報告書の作成		
	9	実習に向けての準備① (高泉・杉浦・吉岡)	次実習における学習の重点項目の整理、再事前学習①		
	10	実習に向けての準備② (高泉・杉浦・吉岡)	次実習における学習の重点項目の整理、再事前学習②		
	11	実習計画書の協議と共有 (高泉・杉浦・吉岡)	実習計画書の検討 3者間における実習計画書の共有		
	12	実習の振り返り (高泉・杉浦・吉岡)	ソーシャルワーク実習としての学び		
	13	実習の振り返りと課題の明確化 (高泉・杉浦・吉岡)	実習評価表を用いた自己評価を行うことを通し実習および実習生としての自分を振り返る		
	14	実習報告書(総括レポート)の作成 (高泉・杉浦・吉岡)	実習全体を振り返り、言語化する		
15	実習報告会 (高泉・杉浦・吉岡)	自分の実習成果や課題等を伝え、他者の報告から学ぶ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワーク実習 I		担当教員 (実務経験)	高泉一生 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 5単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)		時間数 240時間
授業目的	ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。				
到達目標	①支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用したミクロからマクロに渡る支援計画を作成し、実施及びその評価を行う。 ②総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目の評価は、実習先の評価と訪問指導担当教員・学内教員などの教員による評価によって構成される ・実習先の評価は、日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック統一様式である実習評価表の総合評価が対象となる ・教員による評価は、実習日誌、事例研究、訪問指導時の報告相談、訪問指導記録、実習報告書が対象となる ・詳細は授業にて説明する 		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	100%				
履修上の留意事項	実習に臨むためには、良好な健康状態である必要がありますので、各自体調を自己管理し、不調の際はすみやかに病院を受診してください。その結果はもちろんですが、実習状況等についても自己判断せずに、教員や実習指導者との相談、連絡、報告を密に行い、協働して進めていくことを忘れずに取り組んでください。また、利用者や実習先の協力に感謝し、謙虚に、貪欲に、主体性をもって実習に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	基本的コミュニケーションや円滑な人間関係形成 (高泉・杉浦・吉岡・小林)	対人援助の基本的な態度、対象とのかかわり方を学ぶ		
	2	利用者理解とニーズ把握および支援計画の作成 (高泉・杉浦・吉岡・小林)	実習施設・機関の利用者動向について学ぶ		
	3		インテーク～評価までの一連の支援プロセスに関する内容		
	4		グループの理解・支援計画について		
	5	利用者や関係者との援助関係形成 (高泉・杉浦・吉岡・小林)	本人・家族との面接		
	6		利用者や関係者(家族を含む)とのかかわり方や関係性の理解		
	7	利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価 (高泉・杉浦・吉岡・小林)	権利擁護、エンパワメントの観点からの実践の理解		
	8	多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 (高泉・杉浦・吉岡・小林)	他職種とその業務内容・専門性に関する理解		
	9		職場におけるチームアプローチの方法、各種会議の運営に関する理解		
	10	施設・事業者・機関・団体等の経営や運営管理の実際 (高泉・杉浦・吉岡・小林)	実習先の根拠法令、意思決定過程、財務、組織構造の理解		
	11	地域の中の施設という理解と地域社会への働きかけ (高泉・杉浦・吉岡・小林)(アウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発)	実習先の地域特性、福祉課題、社会資源の理解		
	12		実習先の地域に向けた事業および分野横断的な働きかけの具体的理解		
	13	社会福祉士(ソーシャルワーカー)としての職業倫理、組織の一員としての役割・責任に関する理解 (高泉・杉浦・吉岡・小林)	社会福祉専門職の価値・倫理、ソーシャルワーカーの業務内容理解		
	14		文書様式や記入内容・方法の理解		
15		実習における態度およびスーパービジョンの理解			

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワーク実習 I	担当教員 (実務経験)	杉浦 理恵 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として児童福祉施設に勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員	吉岡 秀典
授業形態	実習	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として病院に勤務
		担当教員	小林 智子
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として成年後見活動に従事
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)			担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数(1回90分)		時間数
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%			
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	現代の精神保健の課題と支援		担当教員 (実務経験)	鈴木 真人 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	精神面での保健を体系的に捉え、対応策や予防策を理解する。対象を一人の人として捉え、社会環境問題なども含めて精神保健を総合的に理解する。				
到達目標	精神保健分野での社会からのソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任について理解し、精神保健の課題と支援を考えることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	後期期末テストの素点、および小テストで評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	教科書の重要な部分をまとめたプリントを用いて解説していきます。授業で取得した知識の再確認と理解度の把握のため、不定期で小テストを行ないます。授業参加態度が成績評価に影響する場合がありますので、積極的に発言するように心掛けてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	第1章 精神保健の概要	精神保健とは		
	2	第2章 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方	精神保健の動向 精神保健活動の三つの対象		
	3	ライフサイクル	幼児期～学童期		
	4		思春期～青年期		
	5		成人期		
	6		老年期		
	7		生活習慣と精神の健康 ストレスと精神の健康		
	8		精神の健康に関する心的態度、		
	9	第3章 家族に関連する精神保健の課題と支援	現代日本の家族特徴 出産・育児をめぐる精神保健 子育て支援と暴力、虐待予防		
	10		介護をめぐる精神保健 認知症高齢者に対する対策 高齢化と精神保健		
	11	第4章 精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ	学校教育における精神保健的課題 教職員の精神保健		
	12		関与する専門職と関係法規 スクールソーシャルワーカーの役割		
	13	第5章 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ	現代日本の労働環境 産業精神保健とその対策		
	14		うつ病と自殺防止対策		
15		飲酒やギャンブルなど依存に関する問題			

16		アルコール問題に対する対策 薬物依存対策
17		犯罪被害者の支援 反復違法行為と精神保健
18	第6章 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ	発達障害者に対する対策
19		社会的ひきこもりをめぐる精神保健 社会的ひきこもりに対する対策
20		貧困問題と精神保健 社会的孤立
21		災害時の精神保健に対する対策
22		グリーフケア、自死遺族支援
23		性的マイノリティと精神保健
24		多文化に接することで生じる精神保健上の問題
25	第8章 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題	関連法規 精神保健にかかわる人材育成
26		精神保健における偏見・差別
27	第9章 精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携	国の機関とその役割 精神保健に関係する法規
28		多職種の役割と連携 地域精神保健にかかわる行政機関の役割 その他の団体
29	第10章 諸外国の精神保健活動の現状および対策	世界の精神保健の実情
30		WHOなどの国際機関の活動